

第4次豊田市生涯スポーツプランの振り返りと第5次豊田市生涯スポーツプラン策定に向けた意見交換

資料 1

1 第4次豊田市生涯スポーツプランにおける状態指標の達成状況

柱	取組方針	状態指標	めざす方向	基準値	最新値	達成状況
する	子どもが楽しくスポーツに取り組める機会の提供	1 日 60 分以上運動する①小学生の割合、②中学生の割合	→	①38.7% (2019 年度) ②69.5% (2019 年度)	①35.1% (2023 年度) ②52.6% (2023 年度)	×
	成人に対する体力等のレベルや趣向に応じたスポーツ機会の提供	週 1 回以上スポーツを実施する成人の割合	↑	55.7% (2020 年度)	59.1% (2022 年度)	○
	気軽に障がい者がスポーツに取り組むことができる機会の提供	スポーツ・レクリエーション活動を行う障がい者の割合	↑	—	17.8% (2022 年度) ※週 1 回以上スポーツを実施した割合	—
楽しむ	本市ゆかりのアスリート及びスポーツチームの応援・交流の推進	個別のトップスポーツチームやわがまちアスリートを認知している市民の割合 ①わがまちアスリート ②名古屋グランパス ③トヨタヴェルブリッツ ④トヨタ自動車硬式野球部 ⑤トヨタレッドテリアーズ	↑	①62.3% (2021 年度) ②100.0% (2021 年度) ③75.4% (2021 年度) ④76.9% (2021 年度) ⑤34.2% (2021 年度)	①32.6% (2022 年度) ②90.0% (2022 年度) ③52.2% (2022 年度) ④60.2% (2022 年度) ⑤29.7% (2022 年度)	×
	豊田スタジアム、スカイホール豊田を生かした「見る」スポーツの推進	①豊田スタジアムで開催するスポーツ大会数、観客数 ②スカイホール豊田で開催するスポーツ大会数、観客数	↑	①14 件、498,096 人 (2019 年度) ②6 件、36,889 人 (2019 年度)	①27 件、636,274 人 (2023 年度) ②25 件、106,442 人 (2023 年度)	○
	地域の活性化に効果的なスポーツツーリズムの取組の推進	①経済波及効果 ②まちなかの賑わい創出	↑	①11,055 円/人 (2019 年度) ②242,522 人/日 (2019 年度)	①8,211 円/人 (2023 年度) ②212,168 人/日 (2023 年度)	×
支える	スポーツ団体及びスポーツ指導者への支援と連携強化	スポーツを「支える」活動をした市民の割合	↑	5.2% (2020 年度)	10.9% (2022 年度)	○
	安全・安心なスポーツ施設の運営と利便性の向上	市営スポーツ施設における重大事故件数	↓	1 件 (2020 年度)	1 件 (2023 年度) ※2023 年含む過去 3 年間で 2 件	△
	スポーツ情報の積極的な収集と発信	運動やスポーツをする上で情報不足を感じる市民の割合	↓	29.1% (2020 年度)	46.4% (2022 年度)	×

2 指標未達成の原因と対策

柱	取組方針	指標未達成の原因と対策
する	子どもが楽しくスポーツに取り組める機会の提供	●2022 年度から市内小学校の部活動が廃止となった。 ●「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン（スポーツ庁：2017 年度）」により、中学校部活動の活動日数・時間等に制限が設けられた。 ●熱中症リスク増大によるスポーツ活動の制限やコロナ禍によるスポーツ機会の損失も影響していると考えられる。 ➡2023 年度から小学生を対象にアスリートによる出前授業を実施。スポーツの楽しさに触れるきっかけを提供している（延べ 153 校・約 9,000 人）。
楽しむ	本市ゆかりのアスリート及びスポーツチームの応援・交流の推進	●基準値である 2021 年度は東京オリンピック・パラリンピックが開催された年であり、アスリートのメディア露出が増え、関心が高まったため、認知度が高くなったと考えられる。 ➡パリオリンピック・パラリンピックやアジア・アジアパラ競技大会を生かし、アスリートの PR を強化するとともに市民との交流機会を増やしていく。
	地域の活性化に効果的なスポーツツーリズムの取組の推進	●基準値である 2019 年度は調査サンプルの 3 割以上が県外来場者だったのに対して、2023 年度は県外来場者が 2 割未満にとどまった。県外来場者が減少したことで、交通費や宿泊費などが減少し、1 人あたりの市内消費額も減少したと考えられる。 ➡県外から多くの来場が見込まれるスポーツイベントを積極的に誘致するとともに、市内消費促進のための情報発信や仕組みづくりを行っていく。
支える	スポーツ情報の積極的な収集と発信	●2020 年度のアンケート調査結果と同様、施設の場所や内容が分かりづらいという回答が多かった。普段利用している施設以外を利用する際に、「どこに」「何ができる」施設があるのか検索しづらいのではないかと考えられる。 ●また、2020 年度のアンケート調査結果と比較し、行事・イベントの情報が分かりづらいという回答が増加した。コロナ禍によりイベントが減少したことで、情報に触れる機会も減少したものと考えられる。 ➡施設の場所・内容を検索しやすくするため TOSS システムやホームページの見直しを行うとともに、イベント情報を積極的に発信していく。

3 第4次豊田市生涯スポーツプランにおける課題と本市を取り巻くスポーツ環境の変化

(1) 第4次豊田市生涯スポーツプランにおける課題

柱	取組方針	課題
する	子どもが楽しくスポーツに取り組める機会の提供	●様々な外的要因（熱中症リスク増大、子ども会の活動減少、小学校部活動の廃止、中学校部活動の活動時間制限、価値観の多様化、少子化によるチーム編成の難しさ）がある中で、子どもがスポーツの楽しさに触れられる機会の提供や、継続して取り組める環境をこれまで以上に整備する必要がある。
	成人に対する体力等のレベルや趣向に応じたスポーツ機会の提供	●他世代と比較し、スポーツ実施率が低い20～40代の子育て世代に向け、積極的にアプローチする必要がある。 ●超高齢社会を見据え、高齢者の健康増進や生きがいづくりに資するスポーツ機会をより一層提供する必要がある。
	気軽に障がい者がスポーツに取り組むことができる機会の提供	●国の目標値（40%）と比べ、17.8%と低い状況にある市内障がい者のスポーツ実施率を向上させる必要がある。
楽しむ	本市ゆかりのアスリート及びスポーツチームの応援・交流の推進	●スポーツチームごとで認知度にばらつきがあるため、積極的にPRする必要がある。 ●PRに加え、アスリートとの交流機会を増やしていく必要がある。
	豊田スタジアム、スカイホール豊田を生かした「見る」スポーツの推進	●Jリーグ秋春制の導入、市外スポーツ施設の整備により、豊田スタジアムやスカイホール豊田で開催される既存スポーツイベント数が減少する可能性があるため、新規スポーツイベントの誘致戦略を検討する必要がある。
	地域の活性化に効果的なスポーツツーリズムの取組の推進	●既存スポーツイベント減少の可能性がある中で、今後の大規模スポーツイベントやスポーツ大会・合宿等の誘致戦略を検討する必要がある。 ●スポーツイベント来訪者に、市内を回遊してもらい、消費してもらうための仕組みを構築する必要がある。 ●広域な市の資源を活用したアウトドアスポーツなどとの連携を検討していく必要がある。
支える	スポーツ団体及びスポーツ指導者への支援と連携強化	●地域スポーツクラブや協会・連盟、スポーツ少年団への支援や連携強化によって、市民のスポーツ機会を拡充していく必要がある。 ●高齢化や人口減少が進行する中で、部活動の地域移行も見据えたスポーツ人材の確保を着実に推進していく必要がある。
	安全・安心なスポーツ施設の運営と利便性の向上	●人口減少を踏まえたスポーツ施設の適正配置や効果的な活用の仕組み、熱中症リスクへの対応策などを検討する必要がある。
	スポーツ情報の積極的な収集と発信	●アンケート結果を踏まえ、施設の場所・内容を検索しやすくするなど、TOSSシステムやホームページの見直しを行うとともに、市民ニーズの高い「年齢層にあったスポーツ情報」を中心に、積極的に情報発信していく必要がある。

(2) 本市を取り巻くスポーツ環境の変化

- 人口減少、少子・高齢化 ●新型コロナウイルス感染症5類移行 ●こどものスポーツ実施率が年々減少 ●部活動の地域移行に向けた動き ●豊田中央公園第二期整備完了（2026年度）
- 2026年にアジア・アジアパラ競技大会開催 ●Jリーグ秋春制、市外スポーツ施設開業による市内スポーツイベント減少の可能性 ●IOCが2025年にeスポーツの国際大会を決定
- 2024～2025年度にかけて、市内小・中学校の体育館・武道場に空調設備を導入 ●2025年度から第9次豊田市総合計画スタート

4 第5次豊田市生涯スポーツプラン策定に向けた意見交換

第4次豊田市生涯スポーツプランの指標の達成状況や取組実績、課題やスポーツ環境の変化等を踏まえ、次期プランの策定に向け、主に以下の項目についてご意見をください。

①第5次豊田市生涯スポーツプランで注力すべき内容

②スポーツの定義

※第4次豊田市生涯スポーツプラン本編P7参照

③プランの体系

※第4次豊田市生涯スポーツプラン本編P47～51参照